

中部大学民族資料博物館

年報 第5号

---

2015

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY



巻頭言

「博物館相当施設」指定時の審査指摘項目を改善するための計画三年目にあたり、博物館の施設環境整備と管理について、学内外の関係者に協力を得ながら、できることから徐々に進めてきた。開館当初から、収蔵資料の記録のデータ化が始まり、合わせて既存施設を改築しての展示環境や保存環境について整備と観察を並行して行い、また一方で新たに企画催事の開催を年間通じて複数本行っていくという状況で、合間をぬって各種の研修に向き、他館との交流や情報収集にあたった。こうした日々の経過を愛知県へ毎年報告してきたが、このたびの三年目の報告をもって、一つの区切りとすることが認められた。このことについて、さまざまに御協力をいただいた皆様には、この場をお借りして心より感謝申し上げたい。

しかし、大学博物館をめぐる状況は課題も多く、これからは本学ならではの特色を打ち出すよう試みながら、大学環境の変遷をよく考えながら、当館においても運営していく工夫と真摯な努力が重要と思われる。

ここにあらためて、新たな船出を決意し、今後も多くの方々の御支援と御指導を切にお願いする所である。

※平成 28 年 4 月に、大西良三学園長が逝去されました。当館のアドバイザーとして生前賜りました御厚情に深く感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

2016 年 6 月 中部大学民族資料博物館



中部大学民族資料博物館  
年報  
2015

目次

巻頭言（平成 27 年度 博物館事業概要）

1 組織・施設

博物館の組織・人員	2
運営委員会	3
収蔵資料点数	4
施設整備概要	5

2 博物館活動報告

開館日数・入館者統計	8
団体見学	10
会議・出張	11
展示・講演・講座	13
出版事業	30
資料収集・保存等	31
調査研究活動	32
教育普及に関する活動	34
広報活動	36

(別表) 民族資料博物館 平成 27 年度展示・催事一覧	38
------------------------------	----



# 1 組織・施設

## 民族資料博物館の組織・人員

館長 和崎 春日（国際関係学部長兼務、国際関係学部教授）

図書館事務部次長 稲ヶ部正幸（専任事務員）

副館長 宇治谷 恵（准専任事務員、学芸員兼務）

原田 千夏子（専任事務員・学芸員兼務）

中川 智美（非常勤嘱託 B 平成 27 年 4 月～）

猪塚 里香（契約事務補助員 平成 24 年 7 月～）

佐藤 尚子（平成 24 年 10 月～）



平成 27 年度 民族資料博物館運営委員会

委員長 委員	民族資料博物館長	和崎 春日
	民族資料博物館副館長	宇治谷 恵
	国際文化学科 教授	中山 紀子
	国際文化学科 教授	杓谷 茂樹
	国際文化学科 教授	財部 香枝
	国際文化学科 准教授	中野 智章
	中国語中国関係学科 教授	澁谷 鎮明
	中国語中国関係学科 講師	宗 婷婷
	日本語日本文化学科 教授	嘉原 優子
	人文学部共通教育科 教授	千葉 成夫
	人文学部共通教育科 准教授	西山 伸一
	幼児教育学科 准教授	采畢 真澄
	情報工学科 准教授	鈴木 裕利
	人文学部共通教育科 講師	大橋 岳
	管財部長	小谷 高秋
	管財部担当部長	吉崎 真琴
	図書館事務部次長	稲ヶ部 正幸
外部専門委員	愛知県立芸術大学名誉教授・元学長	川上 實
	国立民族学博物館名誉教授・元館長	石毛 直道
	日本美術院特待・国宝法隆寺金堂模写事業経験	下川 辰彦
	中部大学客員教授、慶応義塾大学名誉教授	前田 富士男
アドバイザー	学園長	大西 良三
	中部大学名誉教授	畑中 幸子
事務局	民族資料博物館	原田 千夏子

収蔵資料点数一覧

2016年3月31日現在

地 域		点数	計	
シルクロード	コイン	616	719	
	その他	103		
オセアニア	オセアニア	466	466	(76)
アジア	西アジア	67	867 (56)	
	東アジア	527		
	東南アジア	199		
	南アジア	74		
アメリカ	アメリカ	258	258	(24)
アフリカ	アフリカ	100	100	(8)
ヨーロッパ	ヨーロッパ	157	157	(6)
小 計		2,567 (170)		
その他：コレクション関連資料		1,157(21)		
合 計		3,724 (191)		

( ) は、写真・映像資料数。書籍および参考資料は除く。

## 施設整備概要

「博物館相当施設」の指定（2013年2月5日付公示）とともに、改善計画の進捗状況を以後3年間にわたり愛知県に報告することが定められている。平成27年度の第3回目の経過報告（12月15日提出）にあたり、施設整備に関しては次の事項を報告した。

### <資料の保存環境の整備について>

#### 1 空調対策

##### ・温湿度計測後の結果分析

2012年11月～2014年12月データ収集分について、昨年度提出資料では、半年毎の平均値集計をおこなったが、毎月の最高値から最低値まで、どれほどの変動差があるのか再確認したところ、急激な変動が生じる場所が各所にあることが計測数値からあらためてわかった。3回目の報告書には、毎月の変動差を数値で表し、乾燥または高湿度の危険性の高い時期について表記した表を作成し提出した。

以後はこれらのデータ統計と分析結果をもとに、施設利用状況に応じた変動状況をさらに分析し、図書館および管財部とともに展示ケースおよび収蔵庫内の環境整備方法について具体的な対策について検討をつづけていく。

##### ・ガス検知検査（2014年7月）後の対応

昨年度検査において、展示ケース内の有害ガスを検知したため、ガス吸着シート設置後に再検査。高い数値でガスが検知されたため、今後の対応を再度検討する必要があるとわかった。展示資料の素材に応じて対応方法を変更していく必要がある。平成27年度は、他大学との共催展示を実施し、他大学の所蔵作品を展示するにあたり、紙製と金属製の材料を用いた作品資料については特に注意するため、ガス吸着シートを展示ケース内部に敷いて対応した。

#### 2 防虫管理対応

##### ・外部の空気が流入するとみられる既設の展示ケース空間で害虫の発生を確認した。

専門業者との打ち合わせにより、ケース内部をブンガノン使用の殺虫燻蒸を一部のケース内部にて実施した（7月）。

（ここに、新規受入資料の一部と、文化財害虫の被害が過去にあったと想定される資料についても加えて応急的な殺虫対応をした。）

##### ・同展示ケース内の敷布の虫害が確認されたため、内部の板と合わせて取替えを行った。

#### 3 収蔵資料のデータベース化計画について（継続事項）

WEBを活用したデータベース計画として、今年度は管財部と博物館の合同利用できる内容に発展させることを決定し、新たな分類項目案を専門部会において作成している。新たな分類項目案にそって既存の文字データをキーワードに応じて振り分けをする作業を在宅協力者とともに実施した。画面レイアウト設定案、分類項目案については、国立博物館の専門研究者の意見もききながら検討している。年度内に仮稼働テストを実施し、より具体的な操作

確認をしている。

#### その他

大学資料を活用した内外への周知については、上記のデータベース化計画のほか、大学と博物館が協力しながら、博物館企画の各種催事や発行印刷物において、作品資料の解説を付記しながら順に紹介を試みている。

(例：博物館ニュースレター等)

## 2 博物館活動報告

## 開館日数・入館者統計

(平成 27 年度 入館者数 月別表)

月	平成 27 年度			(参考:平成 26 年度)	
	開館日数	入館者数	備 考 (主な出来事・行事)	開館日数	入館者数
4 月	23	774	研究資料展示(4/8~5/13)、春のオープンキャンパス(18 日)、高校生による大学見学(7 件)、入学式	23	356
5 月	20	1,147	春季展示(5/21~7/7)、高校生による大学見学(13 件)	19	671
6 月	24	1,154	春季連続講演第 1 回目(7 日)、高校生・他大学学生による大学見学(14 件)	21	682
7 月	24	535	春季連続講演第 2 回目(7 日)、夏季展示(7/10~8/9)、国際関係学部オープンキャンパス(4 日)、高校生による大学見学(8 件)	23	545
8 月	9	442	夏のオープンキャンパス(7~9 日)、協力行事 3 件(7~9 日)、高校生による大学見学(1 件)	9	450
9 月	10	180	高校生による大学見学(3 件)	12	120
10 月	23	888	秋季展示(10/13~11/6)、秋季展示関連シンポジウム(21 日)、秋のオープンキャンパス(17 日)、父母との集い(14~15 日)、高校生による大学見学(7 件)	27	1,063
11 月	22	1,050	秋季展示関連ギャラリートーク(1 日、3 日)、研究室ゼミアプリ開発研究実験(3 日)、写真展示(11/30~12/22)、高校生による大学見学(6 件)	18	733
12 月	16	621	高校生による大学見学(9 件)	16	214
1 月	18	98	高校生による大学見学(1 件)	18	82
2 月	20	51		17	283
3 月	23	478	特別講座作品展示(3/23~4/7)、学位授与式、高校生による大学見学(3 件)	21	522
計	232	7,398		225	5,721

平成 27 年度の開館日は、232 日、入館者数の合計は 7,398 名である。この他、学内の別会場における催事(春季連続講演、秋季シンポジウムの参加者数 199 人、通年にわたり開催する特別講座:全 26 回延べ 416 人)の参加者数は延べ 615 名をあわせると、当館の平成 27 年度の催事参加者は合計で延べ 6,525 名となる。例年どおり、大学催事への参加を積極的に試み、土日祝日における催事開催時は特別に開館して対応をとった。特別開館した催事は次のとおりである。

平成27年度 大学催事に特別開館対応をした主な催事

総件数：24 件（27 日間：計1,479 人） （参考：平成26年度 22 件、1,190 人）

内訳：

- 1) 4月18日（土） 春のオープンキャンパス（107）
- 2) 4月29日（水） 昭和の日（授業日）（7）
- 3) 5月30日（土） 春日丘高等学校 国際コース課外授業（70）
- 4) 6月6日（土） 中部大学第一高等学校 PTA（104）
- 5) 6月7日（日） 春季連続講演 第一回目（76）
- 6) 7月4日（土） 国際関係学部 夏のオープンキャンパス（31）
- 7) 7月21日（火） 海の日（授業日）（6）
- 8) 7月28日（土） 高校見学（76）
- 9) 8月7～9日（金～日）夏のオープンキャンパス（283）
- 10) 8月19日（水） 高校見学（45）（臨時休館中）
- 11) 8月29日（土） 春日丘中学校・高校・PTA 見学（73）
- 12) 9月11日（金） 高校見学（34）（臨時休館中）
- 13) 9月21日（月） 敬老の日（授業日）（8）
- 14) 9月22日（火） 国民の休日（授業日）（18）
- 15) 9月23日（火） 秋分の日（授業日）（12）
- 16) 9月26日（土） 高校見学（29）
- 17) 10月12日（月） 体育の日（授業日）（8）
- 18) 10月17日（土） 秋のオープンキャンパス（80）
- 19) 11月1日（日）～3日（火） 大学祭（日曜・大学の振替休日・文化の日）（302）
- 20) 11月14～15日（土～日） 父母との集い（151）
- 21) 11月23日（月・勤労感謝の日：振替休日）（授業日）（0）
- 22) 11月28日（土） 春日丘高等学校 PTA 見学（100）
- 23) 3月26日（土） 特別講座受講生制作作品発表展示（8）

<授業利用>

- ・4月15日 「現代教育学部スタートアップセミナー」（37）
- ・5月26日 「博物館経営論」（宇治谷 30）
- ・6月2日 「国際関係学部スタートアップセミナー」（55）
- ・10月15日 「博物館資料保存論」（31）
- ・10月22日 「博物館資料保存論」（31）
- ・10月26日 「博物館展示論」（28）
- ・11月5日 「国際関係学科 基礎演習」（21）

## 団体見学

入館者数の内訳では、高校の大学施設見学としての団体見学である。受入件数は、72件、見学総数は合計3,934名となり、昨年度に比べ449名の増加となった。

この他、地域の学内学生が主体となって行う児童対象や、市民グループの講座内での見学、高校と大学の連携授業内での見学等において、見学授業のスタイルで展示室が利用される件数が増えた。大学博物館としての認知度をあげ、地域に開かれた教育施設として活動していきたい。

### 平成27年度 高校見学受入状況

受入件数 計72件、合計人数3,934人（参考：前年度 68件 計3,485人）

### 平成27年度 その他のグループ見学等の受入状況

#### <団体見学・交流等>

- 4月8日 春日井市交流団体の見学（カナダ・ケローナ市民）（68）
- 5月13日 嘉興学院大学（中国）（10）
- 5月28日 点訳ボランティア 春点（障害者含む）団体の見学（50）
- 6月12日 春日井市商工会議所 女性部会 研修見学（25）
- 7月16日 同済大学（中国）（27）
- 10月7日 中国連携予定大学 関係学生（20）
- 10月20日 JICA 海外研修者（20）
- 10月23日 春日丘中学校啓明コース見学（80）
- 10月23日 私立大学キャンパスシステム研究会第四分科会（40）

#### <申請関連>

2015年12月15日 愛知県教育委員会にて指導を受ける。

（「博物館相当施設」指定後の改善計画進捗状況報告 第三回）

2016年3月24日 愛知県教育委員会における視察を受ける。

2016年3月31日付 「中部大学民族資料博物館の相当施設の指定に係る改善計画進捗状況報告について（通知）」を受理。（経過報告義務の終了が認められた。）



## 会議・出張

### 会議

#### 運営委員会

##### 第1回（6月25日）

- 議事
- 1 新委員紹介
  - 2 平成26年度 催事報告について  
平成26年度 開館日数、入館者数について
  - 3 平成26年度 決算報告について
  - 4 平成27年度 予算について  
中期・長期計画について
  - 5 平成27年度 催事について
  - 6 収蔵資料保存環境整備の経過と予定について
  - 7 データベース化計画の経過と予定について
  - 8 平成26年度 寄贈資料、平成27年度 寄贈予定資料について
- その他 民族資料博物館（運営委員会）の課題について

##### 第2回（3月3日）

- 議事
- 1 平成28年度の事業計画（展示等）について
  - 2 収蔵資料管理用データベースについて（経過）
  - 3 館長人事について

#### 専門部会

##### 第1回（7月24日）

- 議事 収蔵資料管理用のデータベース設計案の経過について
- ・WEB利用についての提案
  - ・画像のサーバー管理方法の提案
  - ・管財部、博物館合同の分類項目案について

##### 第2回（2月16日）

- 議事 平成27年度 新分類項目案にもとづくシステム設計案の仮稼動テスト前の画面確認について
- ・使用環境の確認
  - ・基本動作の確認

第3回(3月18日)

議事 平成27年度 新分類項目案にもとづくシステム設計案の仮稼動テスト前の画面確認について2(管財部合同)

- ・管財部、博物館合同の基本入力画面等の動作確認
- ・画像処理、大学環境に関する課題と新年度の予定

出張

- 5月9～11日 春季展示、講演打合せ(京都府宮津市他)(宇治谷)
- 6月13日 膠文化研究会出席(東京藝術大学)(原田)
- 6月26日 愛知県博物館協会 平成27年度総会出席(愛知県陶磁美術館)(宇治谷)
- 7月2～3日 東海地区博物館協議会 総会、研修会参加(新江ノ島水族館他)(宇治谷)
- 8月2～4日 国立美術館 鑑賞教育指導者研修(関連シンポジウム含む)  
(東京国立近代美術館、国立新美術館)(原田)
- 8月8日 秋季展示打合せ、シンポジウム参加(京都国立近代美術館)(原田)
- 10月23～24日 全国博物館学講座協議会 西日本部会出席(岡山 就実大学)(宇治谷)
- 12月12日 愛知県博物館協会 部門別研修会参加(名古屋市博物館)(原田)
- 12月25日 データベース構築計画資料について(東京国立博物館)(原田)
- 12月25日 アフリカ資料の展示打合せ(東京都港区)(宇治谷・大橋)
- 2月4日 愛知県博物館協会 教育・普及部門研修会参加(愛知芸術文化センター)  
(原田)

## 展示・講演・講座

### ・常設展示

アフリカ地域に関連する木彫資料を中心とした展示レイアウトを一部変更を試みている。  
(平成 28 年 5 月完了予定)

### ・企画催事 1 (展示)

春季は、4月に海外からの団体グループ見学を迎える機会に、日本画の伝統的な天然材料を日英版の解説パネルを作成し紹介する素材研究資料展示を行った。平成 25 年の秋季企画展示にて新規に作成した、顔料や染料の彩色を観察できる視覚教材の一部を合わせて展示した。

次に、地元市民グループで染織を学び復元衣料を制作する「悠遊会」(愛知県春日井市)による制作衣料の展示を行った。

夏季は、例年と同じく収蔵資料をテーマ別に解説を新たに付記し紹介していく展示で、「美の起源—五大陸の絵具」を開催した。4月に開催した素材研究展示においては、主に日本画の彩色を中心にしたが、それに比較研究する観点で、世界のさまざまな国において用いられている天然の彩色の材料と儀礼に用いられている風景を、写真資料に解説を付記する方法でパネルを準備するとともに、館の収蔵資料から関連の現物資料を選択し、合わせて考察するために展示した。

秋季は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館と共催展示を行った。京都工芸繊維大学の並木誠士教授が文化庁に助成を受けて開催している、新たな学芸員養成カリキュラム(アートマネージャー養成講座)のうちの学外展示実習を、今年度は当館が要請を受け、展示準備から調査活動、広報活動等の指導や支援を共同で行った。当館では博物館実習の実施がかなっていないが、今回は今後行っていくための実質的な実習の実施経験として、当館にとっても大学博物館における試みを具体的に検討するためのよい勉強の機会となった。

冬季は、国際関係学部の教員の企画と制作により、JICA50周年を記念して、本学の卒業生で海外青年協力隊に関連した活動の一部を写真パネルにして紹介した。

次に、冬季から春季にかけて、当館主催で開催している「特別講座(古典絵画)」の受講生の成果発表展示を行った。今回は前年度と合同での開催となった。

### ・企画催事 2 (講演)

主要催事の春季と秋季の展示期間には、それぞれ関連するテーマでの連続講演を企画している。今年度は、春季は「自然布—悠久の技を学ぶ」を共通テーマとして、日本の丹後地方に伝わる染織衣料の保存活動にたずさわる研究者と、アメリカの美術館においてエジ

プトの染織の保存調査活動にたずさわってきた研究者による講演を開催した。

秋季は、京都工芸繊維大学アートマネージャー養成講座の企画による共催展示に関連したテーマで「植物≡女性 バリの祭礼とデザインにみる接点」と題し、シンポジウムを開催した。また、展示の会期中には、同じくアートマネージャー養成講座の受講生によるギャラリートークを大学祭期間に2日間にわたって各日2回ずつ行った。

#### ・企画催事3（講座）

一般対象の実技講座（特別講座：古典絵画）を毎年継続して開催している。博物館における調査研究事業の一環として開館当初から開講している催事で、毎年受講希望者が定員を上回り好評を得ている。半期毎の募集をやめ、昨年度より通年制をとることで、受講生の制作意欲に応え、受講生が作品制作にじっくりと向き合う体制とした。

平成27年4月1日～平成28年3月31日間の展示・催事は次のとおりである。

#### ・展示

催事名：4月素材研究資料展示「日本絵画の材料」

会場：民族資料博物館 多目的室

内容：日本絵画における伝統的な材料について、日英解説を新たに作成し、視覚教材や現物資料を活用しながら、外国からの来館者に対応する試みをした。

期間：2015年4月8日（水）～5月12日（火）

入館者数：1,230名（一般、教職員、大学生、高校生）

※会期13日まで延長の入館者数

春の入学シーズン到来の時期に、社会連携推進部のアテンドで春日井市の姉妹都市のカナダ、ケローナ市の皆さんが当館を見学される機会に合わせて、日本の伝統的な天然材料を紹介する展示を企画した。実際に画家が用いる顔料や染料の現物を借用して、絵皿に少量出して、手に触れることができるコーナーを設置する他、展示のメインは、一昨年の企画展示「古典と現代の比較－顔料と染料における日本画



4月素材資料展示チラシ



4月素材資料展示

の新たな表現」に出品するために新規で制作した顔料と染料を比較して検証できる実験パネル（日本の顔料と染料を成分内容に応じて表現の仕上げをパネル）で、そのパネルの制作主旨を英語と日本語の二ヶ国語の解説パネルをこのたびの資料展示において新たに作成した。

その他、墨や和紙、金箔についての材料面の解説、およびこれらを用いて発展してきた日本の色彩が、平安時代の国風文化のもとで「重ねの色目」や「料紙」芸術が発達した背景をコンパクトに解説する日英パネルを制作して設置した。

見学の翌日は、県内の小原村へ和紙の体験を予定しているときき、関連した内容として目にしてもらった点はよかった。常設展示における「シルクロード室」に常設中の日本画作品と壁画模写作品に参考となる付属の解説として、天然材料に美的価値を見出して発達してきた古典絵画の研究と、現代の日本文化の中で根差す美的感性の一端を少しでも感じ取ってもらいたいという目的で実施した。

実施決定から短期間での準備対応となったため、改善する内容表現など課題も複数あることがわかったので、次回にむけて工夫していく。(原田)

担当：原田 千夏子（民族資料博物館）

指導協力：下川辰彦（日本美術院特待・民族資料博物館 外部専門委員）

催事名：春季展示会「自然布—悠久の技に学ぶ」

会場：民族資料博物館 多目的室

内容：日本の染織衣料を学ぶ地域市民グループ制作による衣料の展示

期間：2015年5月21日（木）～7月7日（火）

入館者数：1,785名（一般、教職員、大学生、高校生）

中部大学民族資料博物館は、開館以来、学内の教職員や学生だけでなく広く市民の方々から多大なご協力をいただいていた。今回の企画展は、その間の協力や連携の成果を展示として紹介したものであった。自然布は、自然に生えている植物や生息する生物の繊維を、その土地の泥や植物の色素で染めて織られたものである。また、自然布は地域の人々により、親から子、子から孫へと代々受け継がれてきた知恵と技術により生み出されてきた。この自然布を通じて、人々の願いやその底に潜む心、そして生業など悠久の生活や技術を、現代の若い人々がその心を考え学ぶよい機会になったのではないかと思った。



親から子へ、手から手へ  
何百年、何千年と受け継がれてきた「悠久の技」  
現代に学び、活かせる未来へ

# 自然布 悠久の技に学ぶ

■平成27年度春季展示会 会場：中部大学民族資料博物館  
日時 2015年5月21日(木)～7月7日(火)  
9時30分～16時30分

■春季連続講演 会場：中部大学リサーチセンター

第1回 6月7日(日) 13時30分～15時(先着:80名)  
「藤織りと裂き織り」  
講師：井之本 泰 氏 (丹後藤織り保存会会長)

第2回 7月7日(火) 15時30分～17時(先着:80名)  
「エジプトの亜麻：メトロポリタン美術館の所蔵品などから」  
講師：梶谷 宣子 氏 (メトロポリタン美術館名誉館員)

中部大学民族資料博物館  
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART, CHUBU UNIVERSITY  
〒487-8601 愛知県春日井市北町1200番地 TEL: 0568-511-9193 FAX: 0568-511-9194 E-mail: minzokuoffice@chubu.ac.jp

春展示チラシ

主な展示物は「藤織り」や「裂き織り」のほか、今回の展示の協力者である悠遊会の方々が収集や製作した「あんぎん」など選りすぐられた資料であった。それら資料を歴史的、民族（民俗）的、あるいは技術史的な切り口で紹介することで、資料に新たな価値を付加することができた。また、これまで博物館ではあまり紹介されなかった資料と出会うことができ、今まで気づけなかった博物館資料の奥の深さを再発見することができ、今後の民族資料博物館における資料展示のあり方を再考察する上でもよい機会となったのである。（宇治谷）

担当：宇治谷 恵（民族資料博物館）



春季展示会 展示風景

催事名：夏季常設コレクション展示「美の起源——五大陸の絵具」

会場：民族資料博物館 多目的室

内容：収蔵資料について、顔料や染料といった天然の彩色とその用いられ方についてとりあげ、世界のさまざまな地域における祭礼における色の意味をとりあげ、祈りに込められた特徴について解説や写真を通して考察する。

期間：2015年7月10日（金）～8月9日（日）

入館者数：720名（一般、教職員、大学生、高校生、児童幼児）

毎年、夏のオープンキャンパス開催時期にあわせて企画している常設資料にテーマを設定してクローズアップして紹介する展示で、今年は、世界の民族において、色彩の用いられる風景を切り取り、その色の意味と、色に託される儀礼や生活の様子を写真パネル等にして解説を付けて紹介した。

人類と「美」に関する起源は、「身体を飾りたい」という本能的な行為から始まっていると考えられている。例えば、旧石器時代の墓からは、花の化石が発見された事例がある。つまり、死者に花を手向けるという弔意を感情のなかで感じていた事実が証明されたことを意味する。またスペインのアルタミラやフランスのラスコーなどの洞窟壁画には、白色で下地を塗り、その上に朱色や黒色で獣や人物を描かれていることが有名である。儀式の空間との関連性が考えられている。

中部大学  
2015 夏季常設コレクション展示  
**美の起源 ~ 五大陸の絵具**  
色にたくす意味は、国によってさまざま。  
収蔵資料と写真パネルで、人々が身体を飾り、祈る姿をみつめてみず

会期 7.10（金）～8.9（日）  
開館 9時30分～16時30分（入場無料）  
会場 民族資料博物館 多目的室

7/4（土）、8/8（土）、9（日）は  
大学オープンキャンパスにより特別開館します。  
9時～15時

《協力行事》  
7月4日（土）  
国際関係学部オープンキャンパス（分会场）  
8月7日（金）～9日（日）  
夏のオープンキャンパス（国際関係学部 分会场）

民族衣装の試着や民族楽器の体験を  
学生がアテンドします

県中央本館 神楽町下庫 スクールバス7分  
公共交通機関のご利用にご協力をお願いします

中部大学民族資料博物館  
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY  
〒465-8501 岐阜県岐阜市津島2-1-1  
TEL: 0564-531111 FAX: 0564-531114 E-mail: info@chubu.ac.jp  
http://www.chubu.ac.jp/museum/

夏季常設コレクション展示チラシ

その他、アフリカ、オセアニア、アメリカの先住民の民族的儀式にのこる身体装飾には、ボディペインティングをすることで、若者が成人へと変化する際の通過儀礼のために悪霊から守護する意味が例えば赤色に託され、死者や先祖との交信をする意味には白色が託される、といった事例が複数ある。

これらの素材は、土や樹木の実であり、まさに天然の材料である。大地の恵みを身体に塗り重ねて、生命力を増長させるという考え方のもとで伝承されている。各国の絵具の現物は、当館には少ないため、展示資料に施されている絵具をヒントに想像するため、関連資料を展示に採用した。また、用いられている画像映像を紹介するパネルが少ないことから、文献から参考写真を複写し拡大印刷することで視覚材料を追加した。

これらと比較する意味で、素材としては同じ土や岩、染料を用いながらも、日本の絵画の場合はどうか、という点で、一昨年 of 企画展示で制作した顔料の成分の相違による表現の仕上がりを比較するパネルを本展示においても一部展示した。一昨年の展示の企画内容を、いずれ世界の国々のこうした色彩の事例と比較して検証してみたいという意識が当初からあったため、その第一回目の機会として実現できたことは一つの成果として嬉しい。各国の民族儀式と、絵画材料として発達してきた日本の場合とを比較し、人類の移動とともにそれぞれの地域で発展した美意識の過程を一望できる提案として、今後の解説作成の資料として応用していきたい。(原田)

担当：原田千夏子（民族資料博物館）



夏季常設コレクション展示風景

催事名：共催展示「植物≡女性 イメージは世界をかける」

会場：民族資料博物館 多目的室、シルクロード室、1階エントランス

内容：京都工芸繊維大学美術工芸資料館と当館との共催展示。植物と女性のイメージについて東西美術や民族文化のなかに息づく「かたち」を自由に比較考察する。

企画：京都工芸繊維大学アートマネージャー養成講座 2014 年度生

会期：2015 年 10 月 13 日（火）～11 月 6 日（金）

入場者数：1,313 名



(秋季) 共催展示

京都工芸繊維大学の並木誠士教授は、文化庁から助成を受けながら、美術博物館の学芸員を目指す若者を対象とした新しい学芸員養成カリキュラムを独自に作成し、主に関西の大学院生が中心となる学生グループに対して実地研修を多く盛り込んだプログラムを実施されている。そのうちカリキュラムのなかに、受講生が学外において展示企画から広報、展示作業等を一環して企画実施するという、実際の学芸員の行う活動そのものを体現するという本格的な展示実習が含まれている。平成27年度のその学外展示実習の場として、当館に協力要請をいただいた。

企画の条件は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館と中部大学民族資料博物館の収蔵資料を持ち寄り、そこから共通したイメージをかたちにされていくというもので、若い世代の受講生の感性に委ねたところから生み出される新たな観点を見出していく意図にあると見受けられた。従来の様式や時代背景の枠組みを通して作品資料を解釈しようという観察眼から一旦離れてみるという意味では、柔軟な発想を重視することで、展覧会を作る側の一方的な意識にとどまらない、興味関心を寄せて作品資料を探索する意識を深め、展覧会を見る側の目線を持ち続けることにも通じていると思われる。非常によいテーマの投げかけであろうと思った。特に、当館の民族資料に関する作品資料の多くは、作品の来歴情報が不足している点では情報の調査収集も行う必要があったが、それは同時に先入観を入れずに、目にした瞬間の造形性への直感から受けるイメージを自由に膨らませてさまざまな作品資料と比較して関連を想像する楽しみもある。その点では、企画の受講生らは、20代の女性からなるチームであったが、女性らしい観点から、さらには女性性を超越して生命の循環や宇宙観を考えさせられるテーマへと結び付けていくという研究意識を見事に発展させていった。

遠方における活動となるため、施設環境等、さまざまに制約があるなかで、受講生たちは現地調査と以後の自主調査を繰り返し内容を充実させていくという努力の様子もみることができた。

当館においては、今後、大学博物館として博物館実習を本格的に実施していくためにも、今回の展示実習における経験は非常に参考になり、よい勉強をさせていただいた。これからも大学間の相互交流を通じて、よりよい学習環境の充実のために工夫をしていきたいと思う。(原田)

担当：原田千夏子（民族資料博物館）



秋展示チラシ



催事名：写真展示「世界に羽ばたいた中部大生 青年海外協力隊の50周年記念写真展」

会場 民族資料博物館 多目的室

内容：国際関係学部教員の企画で、青年海外協力隊の50周年を期に、本学の卒業生で関連活動に参加した人々の活動の記録を写真にして紹介した。

期間 2015年11月30日(月)～12月22日(火)

会場 民族資料博物館 多目的室

入場者数：276名

## 「世界に羽ばたいた中部大生 青年海外協力隊の50周年記念写真展」

国際関係学部は、独立行政法人国際協力機構(JICA)中部国際センターとの共催により、標記の写真展を2015年11月30日から12月22日にかけて開催した。JICAは、1965年から現在までにおよそ4万人の日本の青年を、開発途上国や新興国に派遣し、地域の人々の暮らしを支え、草の根レベルの交流を図ってきた。

この写真展は、青年海外協力隊の事業発足50周年を記念して、中部大学とその前身の中部工業大学の卒業生約7万人のうち、青年海外協力隊などJICAボランティア事業に参加した経験のある方々に、その活動経験を紹介していただき、在学生を含めた若い世代に海外ボランティアへの関心を持ってもらいたいという意図で企画したものである。同窓生を追跡した結果、アジア、アフリカ、中東、中南米、大洋州などで活躍した34名の青年海外協力隊員の経験者がいることがわかった(開催後さらに3名の卒業生がいたことが判明した)。そのうち、連絡がついた、20歳代から60歳代までの19名(うち1名はシニアボランティア)の卒業生が、当時の写真や在学生へのエールを送ってくださった。19名の卒業生の内訳は、中部工大及び工学部が9名、国際関係学部が9名、また現役の大学院生命健康科学研究科看護学専攻1名で、男性13名、女性6名だった。本学教員で青年海外協力隊員の経験のある5名(非常勤講



**50th** 青年海外協力隊

# 世界に羽ばたいた 中部大生 青年海外協力隊50周年記念写真展

主催 中部大学国際関係学部 中部大学民族資料博物館  
共催 独立行政法人国際協力機構(JICA)中部国際センター  
後援 公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)中部支部

開催期間:2015年11月30日(月)～12月22日(火)  
会場:中部大学民族資料博物館  
※土曜日・日曜日および11月5日(土)(学園創立記念日)は休館

中部大学の前身、中部工業大学が創設されたのは1964年。その翌年の65年に、青年海外協力隊事業が開始されました。以降、延べ40余名の中部工大と中部大、大学院の卒業生は、アジア、アフリカ、中南米、南太平洋の約30か国で、現地の人々とともに活動し、建学の精神である「不言実行」を実践してきました。本展では、青年海外協力隊事業50年の歩みと、先輩たち、そして隊員経験のある教員等の活動の記録を展示し、あわせて後輩たちへのメッセージを紹介します。

**シンポジウム**  
卒業生と教員による、「私の隊員経験」  
12月9日(水) 15:20～16:50

青年海外協力隊何でも相談コーナー  
14:00～15:00, 17:00～17:30

中部大学不言実行館アクティブホール

お問い合わせ  
中部大学国際関係学部事務室  
437-8500 愛知県春日井市南栄1-1-1000  
TEL:0568-514079(直通)  
FAX:0568-521345

中部大学へのアクセス  
JR名古屋駅から中央線神宮(しんぐう)駅下車(徒歩12分)  
愛知環状線春日井南栄駅下車(徒歩10分)

中部大学民族資料博物館  
http://www.chubu.ac.jp/museum/

【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで) 【休館日】11月5日(土)～11月7日(日) 11月16日(土)～11月17日(日) 11月22日(火) 12月22日(火)  
【お問い合わせ】TEL:0568-514079 FAX:0568-521345 http://www.chubu.ac.jp/museum/

### 写真展示チラシ



写真展示風景

師1名を含む)にも協力を依頼し、元JICA職員の私を含め、総計25名(活動した国は23か国)の展示となった。JICA中部からは、熊谷晃子所長のご挨拶や、ボランティア事業の概要や歴史のパネルを提供していただいた。

ささやかなイベントだったが、図らずも中部大学のグローバル人材育成発表の場にもなり朝日新聞、中日新聞、読売新聞が大きな記事で紹介してくれた。10年後、20年後、青年海外協力隊に限らず、世界を舞台にして活躍する卒業生たちのさらなる飛躍を期待したい。\*本展のパネルはカタログにし、本博物館、国際関係学部のHPからデータ・ブックでもご覧になれます。(青木)

企画：青木澄夫(国際関係学部教授)

催事名：実技講座 研究成果発表展示 平成26年度・平成27年度合同 特別講座受講生制作作品発表展示

会場 民族資料博物館 多目的室、図書館1階エントランス

内容：博物館主催の一般対象の有料公開講座の成果発表展示。日本画(絹絵・板絵・日本画)の制作を通じて、古典絵画の伝統的な材料や技法の体験学習を行う。大学博物館における素材研究を通じた新たな生涯学習を实践する試みで毎年継続5年目となる。

期間 2016年3月23日(水)～4月7日(木)

入場者数：257名

本講座は、大学博物館が開館する契機に博物館から、大学の専門研究の一端を一般へ生涯学習のかたちで伝達したいという提案を受けて始まりました。昨年度より通年を通じての開講となり、受講生は作品制作によりじっくりと取り組めるようになりました。今季の展示は、昨年度開講者と合同の成果発表展示とし、一人当たり年間に複数の作品に挑戦する受講生もあることから、展示総数は34点にのびりました。

現代の日本画作品の制作方法には、絹絵や板絵など、日本的な文化が花開いた平安時代の伝統的な古画の技法が息づいています。そうした素材や技法について実技制作を通じて体験することによって、絵画の世界をより深く理解できる機会となるのではないかと思います、受講生各自の選択制にもとづき、基底材を選ぶことができるようにし、個々の進行に応じ

中部大学  
平成26年度・平成27年度合同  
**特別講座受講生制作作品発表展示**  
絹絵、板絵、日本画の作品制作を通じて、日本の古典絵画から継承される伝統的な材料や技法について学んだ成果を発表します。  
会期 3.23(水)～4.7(木)  
3/26(土)は特別開館します(※9時～15時)  
4/7(木)は指導講師による講評会を予定  
開館 平日 9時30分～16時30分(入場無料)  
会場 中部大学民族資料博物館 多目的室  
中部大本館 神原駅下車 スカールバス1分 公共交通機関のご利用にご協力をお願いします

中部大学民族資料博物館  
〒460-0801 愛知県豊田市牛久保町1200番地 TEL: 0565-11-9193 FAX: 0565-11-9194 E-mail: minzokuoffice@chubu-u.ac.jp

特別講座展示チラシ

た指導をこころがけるようにしています。私自身、日本画の作家として制作を続ける傍ら、付属の高校、短期大学、大学と中部大学には約40年にわたり様々な年齢層の学生と向き合ってきました。この経験が少しでもお役に立てればと思っております。

「伝統」を保存し継承するという使命とともに、それを感じ取り理解する柔軟な心を私たちはいつまでも持ち続けていきたいものです。それは、難解に考えるというよりも、五感を通じて体感することなのです。自身の体を通じて得た体験は、自身の言葉によって説明することができます。日本画を通じて、ひとりでも多くの人々が、次の世代に自身の言葉によって、先人の作り上げた素晴らしい美意識とその表現を語り続け、今、生きている時代の感覚とともに理解していくことのできる環境作りのお手伝いできれば嬉しく思います。(下川)

指導：下川辰彦（日本美術院特待・民族資料博物館 外部専門委員）

担当：原田千夏子（民族資料博物館）



特別講座展示風景

## ・講演

催事名：2015 春季連続講演「自然布—悠久の技に学ぶ」

演題：第一回「藤織りと裂き織り」

講師：井之本 泰 氏（丹後藤織り保存会会長）

司会：宇治谷 恵（民族資料博物館 副館長）

日時：6月7日（日）13時30分～

会場：中部大学リサーチセンター 大会議室

参加者数：76名

丹後藤織り保存会長の井之本泰氏から春季企画展「自然布—悠久の技に学ぶ」の関連事業として「藤織りと裂き織り」というテーマで講演を受けた。井之本氏は、現在、京都・丹後にある藤織り保存会の会長であるが、長年、京都丹後郷土資料館にて丹後地域の民俗文化資料の収集・保存・研究活動などをおこなわれていた。特に、藤織りをはじめとする染織の研究においては全国的に著名な研究者であるだけでなく、自らが、藤織りの保存活動の先頭になり、お住まいも丹後半島の上世谷に居を移し、そこで地

**自然布**  
悠久の技に学ぶ

■中部大学民族資料博物館 春季連続講演(無料)  
会場：中部大学リサーチセンター（丸森80名）

第1回 6月7日(日) 13時30分～15時  
講師 井之本 泰氏  
テーマ 「藤織りと裂き織り」

■いよいよとある  
丹後藤織り保存会会長、京都府丹後郷土資料館資料調査員、2013年度SRPサポーター、地域文化推進員、2014年度上世谷地区の協議員、上世谷の藤織りの技を伝承し、資料館を推進員は、京都府北部・丹後半島東部の山間の集落、上世谷に暮らす藤織りの伝承者として、

第2回 7月7日(火) 15時30分～17時  
講師 梶谷 宣子氏  
テーマ 「エジプトの亜麻・トロポリタン美術館の所蔵品などから」

■おなじみの名産品  
トロポリタン美術館名誉館長、1963年設立、織物美術館で古代染織品の材料調査と管理を担い、1966年より2003年まで、トロポリタン美術館で染織品保存の調査と研究に携わり、染織の全体的な発展の発展、資料館、研究、展示を推進して行ってきた。2005年から日本で本格的な活動に参入。

中部大学リサーチセンター  
告知帳付日井市松本町1200  
※告知帳に添付しております。各々ご自身の交通機関もご利用ください。  
●京中本館「脚腰」北11から、中部大学スクールバス利用。  
●京中本館「愛知国際センター」南線「北11」から、名鉄バス利用「中部大学」下車。  
中部大学民族資料博物館 電話 0568-51-9193

春季連続講演チラシ

元の方々と生活をともにしつつ藤織りの保存活動を実践されていることを明記しなくてはならない。

講演内容は、木綿以前の染織のこと、丹後における藤織りの歴史や実態、そして藤織りや裂き織りをはじめとする染織品の全国的な所在情報のことなど多様な話題が提供された。また、藤織り製作にかかわる「合力」（ごうりき）と呼ばれる、ある種の「結」（ゆい）の組織の話とともに、丹後地域の古老などの生の体験や伝承の紹介などこの地域の文化や技術の継承をいかに生活と共存させるかなど、われわれが日常ではあまり知りえない貴重な話であった。この指摘は、今後の地域文化を継承するうえでの博物館の役割だけでなく、今、政治や行政話題の地域創生をおこなうかなどを考えるうえでも貴重なお話であった。講演終了後には、参加者からも熱意ある質問や意見があり、今後の研究を継承・発展させるうえでも有意義な講演会となった。（宇治谷）

担当：宇治谷 恵（民族資料博物館）



第一回 春季連続講演風景

催事名：2015 春季連続講演「自然布—悠久の技に学ぶ」

演題：第二回「エジプトの亜麻：メトロポリタン美術館の所蔵品などから」

講師：梶谷 宣子 氏（メトロポリタン美術館名誉館員）

司会：宇治谷 恵（民族資料博物館 副館長）

日時：7月7日（火）15時30分～

会場：中部大学リサーチセンター 大会議室

参加者数：33名

メトロポリタン美術館は、世界の三大美術館（博物館）と言われ、フランスのルーブル美術館、イギリスの大英博物館に並び称せられる、アメリカで最大の美術館である。梶谷先生は、長年、美術館の染織資料の責任者としてお仕事をされており、染織に関する研究や保存では世界的に著名な先生である。私事であるが、今から20年ほど前、先生から染織資料の展示について指導を受けたこと、特に個々の資料の特質をよく観察することの重要性を教えられたことを今でも忘れることができない。

講演内容は、多くの所蔵品になかでも「エジプトの亜麻」の状況とその歴史的な価値、あるいはその技法や材料、そして染料と染色の助剤について、具体的に資料をもとに詳細な紹介があった。その後、エジプトにおけるナイル川の役割や西アジアのコーカサス地方までの伝播についても言及された。最後に、技術や材料の交流や伝播が人々の歴史や文化

交流と深く結びついているとの視点は、現在の日本においても、地域文化を研究する意味でも、あるいは博物館の果たす役割についても改めて認識させられた。しかし、メトロポリタン美術館でさえ、現在、資料調査に携わる人材が減少していると指摘されたことは、これからの民族資料博物館において資料調査どのように充実するかを考えるうえで貴重なお話であった。講演終了後には、参加者からも熱意ある質問や意見があり、今後の研究を継承・発展させるうえでも有意義な講演会となった。(宇治谷)

担当：宇治谷 恵 (民族資料博物館)



第二回 春季連続講演風景

催事名：(共催展示関連シンポジウム)「植物≒女性 バリの祭礼とデザインにみる接点」

演題：「バリの娘たちと花の冠」

講師：嘉原 優子 (宗教学・文化人類学/中部大学教授)

演題：「アール・ヌーヴォーと植物、女性の表象」

講師：永井 隆則 氏 (建築学系/京都工芸繊維大学准教授)

司会：並木誠士 氏

(日本美術史・博物館学)

／京都工芸繊維大学教授・京都工芸繊維大学  
美術工芸資料館館長)

日時：2015年10月21日(水) 15時30分～

会場：中部大学不言実行館 アクティブホール

参加者数：45名

今年度の秋季企画展示の時期は、京都工芸繊維大学芸術資料館と共催で展示を行うこととなった。関連のシンポジウムも展示期間中に同じ、京都工芸繊維大学のアートマネージャー養成講座の受講生によって企画実施された。展示テーマに関連して、シンポジウムでは、二大学の民族学と美術史という双方の観点から植物の「かたち」について考察するため、各大学の研究者の講演により事例が紹介され、次にパネルディスカッションにおいて、「かたち」と「意味」の関連性を考えていくなかでの、「植物」を通じ

# 植物 ≒ 女性

—イメージは世界をかける—

世界には多くの民族が、時代や地域ごとにさまざまな文化を作り上げてきました。しかしこの多様な文化のなかにも、まるで世界をかけているかのように、時代や文化を超えて共通するイメージを見出すことができます。その一つが「植物」と「女性」のイメージです。

本展では、中部大学民族資料博物館と京都工芸繊維大学美術工芸資料館が所蔵する多岐にわたる作品資料より、或アジアから欧米に至るさまざまな文化圏の中に登場する「植物」と「女性」の結びつきを、「生命」と「フォルム」、そしてその「ロゴタイプ・シンボル」という観点で探っていきます。

異なる2つのイメージは、視点を交える事によって驚くほど「与」、つまりほぼ同じと言えらるのです。

本展は、文部科学省の2015年度文化芸術推進事業(大学・専門学校教育資料を活用したアート・マネージャー育成プログラム)と中部大学による研究員育成プログラムの連携により、京都工芸繊維大学アート・マネージャー養成講座2015年度卒業生が企画・実施した展覧会。

**シンポジウム**

日時：2015年10月21日(水) 15:30～17:30(開場15:00)  
場所：中部大学 不言実行館アクティブホール  
主催：中部大学不言実行館、民族学系、美術工芸資料館

◎会場料 100名(申込不要)  
◎出演 永井 隆則 (京都工芸繊維大学 准教授)  
嘉原 優子 (中部大学 教授)

**ギャラリートーク**

中部大学 不言実行館 3E1(大・配)の1E105～1E110から、アートマネージャー養成講座受講生によるギャラリートークを開催いたします。

(観覧券についてお問い合わせ)  
中部大学 民族資料館 074-425-5222  
中部大学 美術工芸資料館 074-425-5200  
TEL: 059-841-4333 Fax: 059-841-9134  
http://www.kubun.ac.jp/museum/  
アートマネージャー養成講座についてお問い合わせ  
京都工芸繊維大学 美術工芸資料館  
〒604-8505 京都府京都市北区中納言町  
TEL: 075-724-7034 Fax: 075-724-7030  
http://www.kyushu.ac.jp/

**会場アクセス**

◆公共交通機関のご利用にご協力ください。

〔京阪線駅からタクシーへお越しの場合〕  
京中本通り(神保町)より3分 地下車(名古原駅より)徒歩15分(約25分)  
新舞鶴駅より徒歩15分(約25分)  
京都駅より徒歩15分(約25分)  
京都駅より徒歩15分(約25分)  
高麗駅より徒歩15分(約25分)  
高麗駅より徒歩15分(約25分)  
高麗駅より徒歩15分(約25分)

〔京阪線駅からバスへお越しの場合〕  
京中本通り(神保町)より3分 地下車(名古原駅より)徒歩15分(約25分)  
新舞鶴駅より徒歩15分(約25分)  
京都駅より徒歩15分(約25分)  
京都駅より徒歩15分(約25分)  
高麗駅より徒歩15分(約25分)  
高麗駅より徒歩15分(約25分)  
高麗駅より徒歩15分(約25分)

シンポジウム関連チラシ

て継承されてきた普遍的な要素や時代の変遷に応じて新たに生み出されてきた要素についてさまざまに討論された。

企画者である講座受講生らは、シンポジウムの開催準備にあたり、それぞれの研究者へ事前に取材に訪れ、展示内容をより深く追究しようという意欲をもって何度も検討を重ねていた。その結果、展示、シンポジウム、ギャラリートークといった一連の取り組みには、一貫したテーマ性を各自の関心から情報を調査収集から、さらに見学者に対する解説作成という、第三者へ発信するまでといった、それぞれの段階を通じて、さまざまな方面から美術館、博物館という立場におけるテーマ設定について実践的に学ばれていた。

当館においては、収蔵資料の選定の折に、収蔵庫内において、本学の嘉原優子教授の指導のもとで資料を観察する際に、全員で床に手をつきながら資料の詳細を観察しながら記録をとっていった受講生の姿が印象的であり、私自身も収蔵資料の新たな側面を再発見することができた。収蔵資料を教材に活用する機会を増やしていく努力を今後も続けていきたい。(原田)

担当：原田千夏子（民族資料博物館）



シンポジウム風景



共催展示ギャラリートーク風景

催事名：平成 26 年度・平成 27 年度合同 特別講座受講生制作作品発表展示内 講評会

講評：下川 辰彦（日本美術院特待／中部大学民族資料博物館外部専門委員）

日時：2016 年 4 月 7 日（水）16 時 00 分～

会場：中部大学民族資料博物館 多目的室

参加者数：22 人

受講生が作品制作に十分向き合う時間をとることができるようにするため、平成 26 年度から本講座は通年制をとることになった。平成 26 年度は制作の進行度の取り方がかわったせいか、複数枚の作品をてがける人も多い一方、作品への高い創作意欲のためか、納得した完成に到達しない人も何人かあったため、成果発表展示は翌年度と合同で開催すること

となった。講座の約半数は 2 年間継続して制作に向き合ったことから、今回の展示では驚くほどの成長の様子を全員の作品からみることができ、指導講師の講評は、より高度な内容に高めていくことができるような示唆を、一人一人の状況に応じて適切に与えていた。

参加者の表情は真剣で、指導講師の言葉をもらすまいとメモをとる姿も多かった。絹絵、板絵、日本画という多様な基底材を同じ講座時間帯に制作を指導できる点は、指導講師の豊かな経験と人徳ゆえに実現できていることをあらためて感じ入った。担当者にとっても作品を制作者の観点から眺めることは非常に勉強になる。来季もまたより意義深い時間となることを願う。(原田)

担当：原田千夏子（民族資料博物館）



講評会風景

## ・講座

催事名：実技講座・特別講座「古典絵画」

期間：2015年4月15日～1月27日 通年：計26回（16名）有料・定員制

講師：下川辰彦（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）

開講5年目を迎える特別講座（古典絵画）は、絹絵、板絵、日本画の自由選択制になり、さらに今年度からは通年制に切り替えることとした。年数を重ねるごとに、受講生の意識は高まり、一枚の作品にじっくり向き合い学習したい者と、小品を組み合わせ制作していきたい者などが増え、半年間の13～15回程度では制作の時間数が足りないという声が多くなったことを受けて、通年制への切り替えを博物館へ相談した結果、実施が実現できることとなった。

昨今では、東海周辺においても、バブル崩壊後の不景気のなかで文化教室の人数が激減し、閉鎖を余儀なくされる教室も少なくないときくが、本講座では毎年抽選により受講生を制限させていただくという点ではありがたく思っている。私に出来ることは、その分、他の教室では紹介されることの少ないと思われる技法や材料の話を見せていただいている。日本絵画の魅力を実際の作品を制作するなかで、深く



特別講座制作風景

感じ取る機会にしてもらえればそれで嬉しく、またそれを各自が、次の機会に、生活風景のなかで家族や友人知人に広めてもらえれば、このうえなく幸いである。(下川)

※博物館担当者より：受講生の小笠原 孝さんが、平成 27 年度の第 64 回 春日井市民美術展覧展に出品された作品「ひまわり」が財団理事長賞を受賞されました。日々の講師の指導も糧となり、実力を付けられていった成果として一堂嬉しく、この場をお借りしてお祝い申し上げます。(原田)

担当：原田千夏子(民族資料博物館)



【H27年度 特別講座（古典絵画）中部大学民族資料博物館アンケート 集計結果】

ゴシック＝回答

回収数 16名／受講性16名

このたびは、当館の特別講座を受講いただきまして誠にありがとうございました。

皆様の声を今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力をお願い申し上げます。

1 講座全体について感想をおきかせください。

① 大変関心を深めた                      ② 普通                      ③ あまり関心が持てなかった

① 15 名

② 1 名

③ 0 名

2 講座の内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。

- ・いろいろな制作の技法を見せていただき勉強になりました。
- ・絹絵の制作
- ・筆運び、絵具の調合等、全体。
- ・裏彩色の仕方、盛り上げ胡粉の使い方など。
- ・花や葉を盛上げて描く事。その為の用意する事とお皿や筆の使い方。
- ・各人がそれぞれ全く異なるテーマや手法で作品に取り組みされていて、幅広く勉強できました。
- ・日本画の技術、見方など様々なことを学ぶ。 ※本人のほうで全部理解できていませんが。
- ・物をしっかり写生する(ただ見た目では描くのではなく、その物自体を見る)。  
構図のとり方。
- ・絵画を長くもたせるための加工方法
- ・日本画の画材、技法の奥深さについて
- ・方解末、盛り上げ胡粉で土台を作り彩色していく技法
- ・受講者の技量に応じた指導方法
- ・先輩の絵の指導を聞くことで参考になった。
- ・モチーフ別ポイントの追求。

- ・色づかい(絵具の溶き方、塗り方等)
- ・何事もよく考えて、しっかり準備をしてから描く事の大切さに気づきました。

3 講師の指導について、いかがでしたか。

- ① 満足した                      ②普通                      ③いまひとつ

① 16 名

② 0 名

③ 0 名

4 講師のどのような指導が良いと思われましたか。

- ・順番に見ていただき、適切なアドバイスがあり、他の方の制作過程も勉強になります。
- ・基礎から教えてもらえてよかった。
- ・実践して(見せて)いただけること。
- ・きめ細かな解説、実技がわかりやすい。
- ・日本画の奥深さを教えていただいていると思いますが、自分の吸収力の無さを実感しています。
- ・生徒の多様性にそれぞれ個性を生かされて指導して下さるところ。
- ・技術面、見方など細かく指導していただけるところ。
- ・説明を理解できていないときには実践して下さるところ。
- ・他では教えていただけないような高度な技術も指導して下さるところ。
- ・斬新な個図や種々なバック作り、絵具の色の出し方のアドバイス。  
実際に筆を取り見せていただける御指導はとても勉強になり感謝申し上げます。
- ・自分の経験に基づく指導
- ・個々の性格と絵に対する心がまえがありがたく指導していただけた。
- ・長時間ご指導いただきありがとうございます。
- ・親切で、個々の力量に合わせて指導して下さいます。
- ・取り組んでいる題材が皆さん異なっていますから、いろいろな手法や技術を具体的に指導して下さり、大変勉強になりました。

5 具体的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。

- ・特にありません。いつもありがとうございます。
- ・いつも丁寧な対応でありがとうございました。
- ・初日に駐車場の入り口がわからなくて迷った。
- ・大変お世話になりありがとうございます。
- ・いつもありがとうございます。困ったときも適切にご指導していただきました。

6 今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。

③ 受講する                      ② わからない                      ① 受講しない

- ① 14名
- ② 2名
- ③ 0名

7 今後、希望される講座内容や、また改善を望まれる点など当館へのご意見・ご要望をお聞かせください。

- ・(制作中の)作品と道具の荷おろしの間、教室のある講義棟の近くに車を仮置きさせてほしい。(2名)
- ・教室がもう少し広く、水道が多くあるともっと便利ですが。
- ・講座が半期から通年に変更したことは、作品を完成まで仕上げることでよい。
- ・これまでの方針や内容を継続していただきたいと思います。
- ・今までどおりご指導ください。自分にはげみとなる講座で楽しく受講しています。
- ・博物館主催の珍しい企画展、楽しみです。

～ご協力ありがとうございました。

## 出版事業

- ・中部大学民族資料博物館「2014年度 年次報告 第4号」(7月)
- ・中部大学民族資料博物館「2014 主要企画展示記録」(7月)
- ・中部大学民族資料博物館「2014 連続講演記録」(5月)
- ・中部大学民族資料博物館「ニュースレター 8号」(3月)
- ・中部大学民族資料博物館「ニュースレター 9号」(10月)
- ・中部大学民族資料博物館 平成26年度・平成27年度合同 特別講座(古典絵画)制作記録

## その他(関連)

- ・中部大学民族資料博物館・京都工芸繊維大学 共催展示  
展覧会図録「植物≡女性 イメージは世界をかける」  
(企画・作成:アートマネージャー養成講座 2014年度生 StepⅢ)
- ・「世界に羽ばたいた中部大生 青年海外協力隊50周年記念写真展」印刷記録  
(企画・作成:中部大学国際関係学部教員 展示:中部大学民族資料博物館)

## 資料収集・保存等

次の平成 27 年度分の受入資料について学園へ報告した（1 月）。

### 寄贈資料

計 8 点

内訳：

- ・民族資料 2 点（個人）
- ・工芸等参考資料 5 点（個人）
- ・民族衣装 2 点一式（個人）
- ・民族楽器 1 点（個人）

### 資料修復・資料保存等

資料保存環境については、2 年間にわたる温湿度データの集計結果をもとに、展示環境を観察しているなかで、最も高温多湿になるオセアニア展示ケースについては虫害の発生も確認できたため、薬品による殺虫対応を行った（7 月）。整理中の寄贈予定資料の一部や過去に虫害発生の危険性のある資料もこの薬品対応に含めた。また、同展示ケース内の敷布について虫害による虫くいの痕跡が多くみられることから敷布全体の取替えと附属の内部構造の板材の取替えを行った（2 月～3 月）。

整理中の民族衣装について、専用防虫剤を用いた保存対応をした（3 月）。

その他、共催展示において、有機ガスを検知した展示ケースに紙資料を展示する場合については、ガス吸着シートを敷き変色被害を回避するよう備えた（10 月～11 月）。変色被害は発生しなかった。

## 調査研究活動

<宇治谷 恵>

(記事執筆)

「悠遊会と中部大学民族資料博物館の歩みを顧みる一学びと遊びを結ぶ」

(「悠遊 第5号」悠遊会、2016年3月15日、41~43頁)

(研修)

題目：東海地区博物館協議会

日時：平成27年7月2, 3日

場所：新江ノ島水族館、神奈川県立生命の星・地球博物館

内容：ICOM（国際博物館協議会）国際会議が京都で開催されることとなり、この研修では学芸員の国際性とリスクマネジメントをどのように育成するかがテーマとなり、バツクヤードツアーなどを通して議論することができた。

題目：シンポジウム「来場者における大阪万博の経験と長期記録」

主催：全日本博物館学会等

日時：平成28年3月19日

場所：吹田市立博物館

内容：大阪万博がその後の日本の博物館や社会にどのような影響を与えたかを検証するとともに、その記録を後世にどのように引き継ぐかを考える。

(講師 カナダ・ブリテイッシュコロンビア大学教授 デイヴィットアンダーソン氏  
神戸学院大学教授 清水 寛之氏)

<原田 千夏子>

(展示)

展示名：「素材研究資料展示 日本絵画の材料」

主催者名：中部大学民族資料博物館

期間：4月8日～5月12日

場所：中部大学民族資料博物館 多目的室

内容：企画。解説パネルおよびリーフレット作成

展示名：夏季常設コレクション展示「美の起源——五大陸の絵具」

主催者名：中部大学民族資料博物館

期間：7月9日～8月9日

場所：中部大学民族資料博物館 多目的室

内容：企画。各種解説資料作成、展示

展示名：共催展示「植物≒女性 イメージは世界をかける」

主催者名：中部大学民族資料博物館・京都工芸繊維大学美術工芸資料館

期間：10月6日～11月13日

場所：中部大学民族資料博物館 多目的室、および1Fエントランス展示

内容：資料調査、解説作成および展示準備協力

展示名：実技講座・研究成果発表展示「平成26年度・平成27年度合同 特別講座受講生制作作品発表展示」

主催者名：中部大学民族資料博物館

期間：4月8日～5月12日

場所：中部大学民族資料博物館 多目的室

内容：企画。制作記録制作。

特別講座（古典絵画／絹絵、板絵、日本画）の一般有料受講生による制作作品の成果発表。継続5年目。

(研修)

研修名：平成27年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」

主催者名：独立行政法人国立美術館

期間：8月2～4日

場所：国立近代美術館、国立新美術館

研修名：平成27年度 愛知県博物館協会 教育・普及部門研修会「デジタル資料撮影」

主催者名：愛知県博物館協会

日時：平成27年12月12日

場所：名古屋市博物館

研修名：平成27年度 愛知県博物館協会研修会「価値を伝えることの重要性とは」

主催者名：愛知県博物館協会

日時：平成28年1月28日

場所：愛知芸術文化センター

## 教育普及に関する活動

### 授業における利用

- 4月15日 現代教育学部スタートアップセミナー (37)
- 5月26日 博物館経営論(30)
- 6月2日 国際関係学部スタートアップセミナー(55)
- 10月15日 博物館資料保存論 (31)
- 10月22日 博物館資料保存論(31)
- 10月26日 博物館展示論(28)
- 11月5日 国際関係学科 基礎演習(21)

### 生涯学習の企画および実践

- 4月～2月 実技講座「特別講座（古典絵画）」の開講（通年・一般有料・定員制16名・連続26回）

※目的：大学博物館における素材研究を通じて、生涯学習の教育普及。

日本画(絹絵・板絵・日本画)の実技制作を通じて伝統的な天然材料や技法について大学の専門性の高い学習内容を一般へ体験をもとに教育的に普及する。

- 3月23日～4月7日 平成26年度・平成27年度合同 特別講座受講生 制作作品発表展示

### その他の教育普及活動

- 5月30日 春日丘高校（国際コース）の課外授業見学（国際関係学部との連携授業内）
- 10月23日 春日丘中学校 啓明コース3年生 課外授業見学

### 博物館資料の活用

- 4月22日 国際関係学部 オリエンテーションのため民族衣装の貸出
- 7月3日 中部大学ボランティア・NPOセンターの国際理解研修用の学習のため  
民族資料、および衣装の貸出
- 8月7～9日 オープンキャンパス開催期間に国際文化学科へ民族衣装の貸出
- 11月6日 国際関係学部へ民族衣装の貸出  
(催事：中部大学+かすがい大好き市民フェスタ内ショー使用)

催事名：国際関係学部オープンキャンパス分会场

日時：2015年7月4日（土）、8月7～9日

会場：民族資料博物館常設展示室内体験コーナー

担当：杓谷 茂樹（国際文化学科教授）



## 「博物館で新・国際学科の多様な学びに触れる」

「このあと、民族資料博物館というところで民族衣装を着てみたり、民族楽器を鳴らしたりしてみませんか?」。夏休みにいくつもの大学のオープンキャンパスをまわって、自分の進路を定めようとしている高校生も、おそらくそんな誘いを受けたのは、ここが初めてだったのではないだろうか。

8月7日、8日、9日の3日間にわたり開催された夏のオープンキャンパス。民族資料博物館を会場とした民族衣装試着と民族楽器の体験企画は、国際関係学部の恒例行事となっている。20号館1階の学生ラウンジで国際関係学部の教員やアシスタント学生と話をしたり、模擬講義などのイベントに参加したりした高校生たちが、学生に連れられて民族資料博物館にやって来る。入口を入ってくる時の彼らの足取りは恐る恐る。顔つきは「へー、こんな場所があるのか...」と驚いたような、感心したような。そこで、担当教員やアシスタント学生が彼らを迎え入れるのである。高校生は、ここで教員や学生から展示の解説を受けることができるし、民族衣装を試着したり、民族楽器の音を出したりすることもできる。

見ていると、真っ先に民族衣装を着ようとするタイプと、まずは展示に向かおうとするタイプがあって面白い。前者は友だちと一緒に写真を撮りながらとてもうれしそうににぎやかにしている一方で、後者は解説を聞きながら展示をじっくり見ているが、体験できる民族衣装や民族楽器から少し距離を置き、なかなか触ろうとしない。どちらも博物館の見方としては決して間違ったことではない。でも次に来たときには、前者にはじっくり展示を見てほしいし、後者にはどんどんモノに触ってみてほしい。民族資料博物館は、何度来てもそのつど新しいつきあい方ができる場所なのだから。

来年、国際関係学部は従来の3学科をひとつにまとめて、国際学科という1学科からなる新体制がはじまる。博物館の展示品は、単に多様な文化が生み出してきたモノが並んでいるというだけではなく、それぞれに歴史や社会、そして時には政治や経済などにいたる様々な背景があることを垣間見せてくれる。だから、国際関係学部の会場に来た高校生が持っているいろいろな関心に合わせるように、民族資料博物館も様々な見方、学び方を提示していけるようにしていきたいものだ。

最後に、博物館職員の皆さまには温かいご協力をいただき、厚く御礼申し上げたい。

(杓谷)

## 広報活動

### 取材

- 5月20日 中部大学放送研究会「チューテレ」放映
- 5月30日 読賣新聞掲載「アジア、中南米 織物技術紹介 中部大の博物館で自然布展」
- 6月5日 「大学なうⅢ」大学紹介番組のため国際関係学部が展示室内にて収録  
(7月1日放映)
- 10月15日 中部大学放送研究会「チューテレ」取材(10月21日放映)
- 10月20日 CC ネット「Cステーション」秋季展覧会の紹介 取材(11月9日放映)
- 12月4日 中日新聞 近郊版掲載「卒業生 海外で熱く 中部大 過去の協力隊員写真展」
- 12月4日 朝日新聞 尾張版掲載「世界で活躍 中部大生知って 青年協力隊員経験者  
体験談や写真を展示」
- 12月9日 読賣新聞掲載「学生へ世界で活躍しよう 海外協力隊員の経験紹介」

### 大学広報等

「中部大学 2016 大学案内」民族資料博物館

「CHUBU UNIVERSITY COMPUS LIFE 2015」民族資料博物館

「学校法人 中部大学 学園報」第495号 2015(平成27)5.20  
(春日井姉妹都市ケローナ訪問団が本学を訪問)記録

「学校法人 中部大学 学園報」第496号 2015(平成27)6.20  
(民族資料博物館2015 素材研究資料紹介展示「日本絵画の材料」)開催記録

「学校法人 中部大学 学園報」第497号 2015(平成27)7.20  
(民族資料博物館2015 春季連続講演第1回)開催記録

「学校法人 中部大学 学園報」第498号 2015(平成27)9.20  
(国際関係学部オープンキャンパス)開催記録  
(民族資料博物館2015 春季展示会)開催記録

(民族資料博物館 2015 春季連続講演第 2 回) 開催記録

(民族資料博物館 2015 夏季常設コレクション展示「美の起源—五大陸の絵具」)

開催記録

「学校法人 中部大学 学園報」第 500 号 2015 (平成 27) 11.20

(民族資料博物館・京都工芸繊維大学アートマネージャー養成講座シンポジウム)

開催記録

「学校法人 中部大学 学園報」第 501 号 2015 (平成 27) 12.20

(2015 秋季展覧会「植物≠女性 イメージは世界をかける」) 開催記録

(民族資料博物館 ギャラリートーク) 開催記録

「中部大学通信 ウプト wpwt」July 2015 No.195

(「空きコマの時間、どこで何してる？」学生編集委員のページ)

#### その他 (学外の催事案内)

「愛知県博物館協会 50 年史」平成 27 年 3 月 31 日 愛知県博物館協会

(「愛知の博物館 No.96 中部大学民族資料博物館」「表紙館の紹介」)

(「平成 24 年度 愛知県博物館等職員研修会の報告」)

「おでかけガイド 愛知の博物館」2015.04～2015.09 (愛知県博物館協会)

「おでかけガイド 愛知の博物館」2015.10～2016.03 (愛知県博物館協会)

「学年の日 Canada Day」(「啓明 24 回生 学年だより 発条」 No.77)

平成27年度 中部大学民族資料博物館 展示・催事一覧

期間	名称	料金	参加者数	内容	主催/共催	備考
----	----	----	------	----	-------	----

◇講演

6月7日	春季連続講演第1回「藤織りと裂き織り」	無料	76	井之本 泰氏 (丹後藤織り保存会会長)	主催	
7月7日	春季連続講演第2回「エジプトの面麻：メトロポリタン美術館の所蔵品などから」	無料	33	梶谷宣子氏 (メトロポリタン美術館名誉館員)	主催	
10月21日	共催展示関連シンポジウム内「パリの娘たちと花の冠」	無料	45	嘉原優子氏 (中部大学人文学部教授/宗教学・文化人類学)	共催	
10月21日	共催展示関連シンポジウム内「アール・ヌーヴオーと植物、女性の表象」	無料	45	永井隆則氏 (京都市芸繊維維大学准教授/建築学系)	共催	

◇常設展示 テーマ展

7月10日～8月9日	夏季常設コレクション展示「美の起源—五大陸の絵具」	無料	720	パネル解説を新規作成し収蔵資料の展示をテーマ別に紹介	主催	継続5年目
------------	---------------------------	----	-----	----------------------------	----	-------

◇企画展示 (多目的室等)

4月8日～5月13日	素材研究資料展示「日本絵画の材料」	無料	1,230	日本絵画の伝統的な材料を紹介するために視覚教材と日英版パネル解説	主催	
5月21日～7月7日	春季展示会「自然布—悠久の技に学ぶ」	無料	1,785	染織を学ぶ地域市民グループ制作の復元資料等の展示	協力	
10月13日～11月6日	共催展示「植物×女性 イメージは世界をかける」	無料	1,313	京都市芸繊維維大学美術工芸資料館と共催、企画は京都市芸繊維維大学アートマネージャー兼成講座受講生	主催	
11月30日～12月22日	「世界に羽ばたいた中部大生 青年海外協力隊50周年記念写真展示」	無料	276	JICA設立50周年の歩みのなかの本学関係者らの関連活動の紹介	主催	企画：国際関係学部青木教授
3月23日～4月7日	平成26年度・平成27年度合同 特別講座受講生作品発表展示	無料	257	当館主催の一般対象有料講座の受講生による日本画美術制作作品の成果発表	主催	

◇常設展示利用

5月30日	鑑賞見学「春日丘高等学校 国際コース課外授業」	／	70	鑑賞授業	協力	
7月4日、8月7日～9日	国際関係学部オープンキャンパス分会場	／	60	鑑賞・体験見学	協力	国際関係学部
11月1日、3日	共催展示関連ギャラリートーク	無料	42	京都市芸繊維維大学アートマネージャー養成講座2014年度生による展示紹介	共催	
11月3日	研究室ゼミ生 アプリア開発研究実験	無料	20	工学部情報工学科 鈴木裕利研究室によるスマートフォンを活用したクイズラリーの実施	協力	

◇美技講座、ワークショップその他

4月15日～2月3日	特別講座 (古典絵画) 連続26回 通年・定員制	有料	16(延べ416)	日本画の美技制作、材料研究・美術史	主催	継続5年目
4月7日	特別講座受講生発表展示 講評会	無料	22	日本画 (絹絵、板絵、日本画作品)	主催	毎年継続
			計	6,010 (延べ6,410)		

中部大学民族資料博物館年報 第5号 2015

平成28年6月30日印刷

平成28年6月30日発行

編集・発行 中部大学民族資料博物館

〒487-8501

愛知県春日井市松本町1200番地（附属三浦記念図書館2階）

T E L 0568-51-9193（直通）

F A X 0568-51-9194

印 刷 不二印刷工業株式会社

